

「第1回アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議」議事概要

■アジア美術について

- ・アジア美術のリテラシー向上が必要（作家の個体識別度の向上など）
- ・祝祭性やスペクタクルを創出するなど、アジア美術のイメージ戦略が必要
- ・祝祭性と、ゲリラ的に生活にアートが滲みだしてくるという親和性を大切にする

■拡充スペースについて

- ・収蔵機能や研究機能は現美術館にとどめるものの、スペースが足りないので拡充先で様々な展示や賑わい機能を追求するという考え方には賛同
- ・展示室を人の集まるところに設けるというのは良い考え
- ・現在の建物もロケーションは悪くなく利用ニーズは高いので、拡充スペースはビルのテナントではない、強力な場所のセットが重要
- ・都市政策と照らし合わせながら市民の生活が豊かになりインバウンドも魅了するようなロケーションを考えていくべき。福岡の都心がどうあるべきかという観点からアートにしかできないことがあるのではないか
- ・まちの真ん中にある美術館の役割を考えるべき。様々な誰かにとってどんな意義がある美術館であるべきか
- ・文化政策としても、アジア美術館をハブとして、だれがどうつながることで福岡がどうなっていくということを設計していく
- ・拡充スペースの中で全て完結させるというハード面だけではなく、ソフト連動で街中とどうつながっていくか
- ・アジア美術が街中で様々な形でプログラムとしてあり、その中心にアジア美術館があるといい
- ・展示としてはアイコンとなる象徴空間が重要

■アジア美術館全般について

- ・トリエンナーレのようなアジア美術の全体状況を俯瞰するような展覧会が必要
- ・アジア美術専門の学芸員を育成してきたことが大きな成果
- ・デジタルも活用した「来る前戦略」が必要
- ・ここで働く学芸員にとってどんな価値がある美術館であるかという視点も必要
- ・市美の学芸員との交流も更に深めるべき

■その他

- ・収蔵品に対して収蔵庫は小さすぎるので拡張が必要
- ・日本の美術館は学芸員の国際化が遅れている
- ・五感から知識を入れたいと思わせるための第一歩をどうつくるかが重要